

ガーナからアメリカ合衆国へのマラリア輸入例

2010年11月4日 ProMED 情報

(MMWR Weekly 59(43);1412)



米国疾病管理予防センター（CDC）は、フロリダ州とペンシルベニア州の保健省に対し、同一航空会社の従業員が熱帯熱マラリアを発病したことを通知しました。20～40歳の女性客室乗務員が2名、40～60歳の男性パイロットが2名の合計4名で、そのうち2名は同じ航空機に搭乗していました。西アフリカのガーナの首都アクラに8月25日から9月2日の間旅行しました。滞在期間は48～80時間でした。全員が同じホテルに泊まり、夕方や夜は屋外のプールやエアコンの効かないレストランなどで過ごしました。約2週間後、発熱、頭痛、悪心・おう吐、下痢といった症状が出現しました。2名のパイロットは呼吸不全に陥り気管内挿管により人工呼吸管理を必要としました。最終的に6～15日の入院治療後、回復し退院しました。4名とも抗マラリア薬の予防内服を行っていませんでした。米国CDCは、西アフリカはマラリアの流行地域なので、この地域への旅行者に対し、蚊よけ対策とともに予防薬の内服を勧めています。